

古文化

受け継がれる、日本屋根の伝統美。

第119号



賀茂神社 社殿
[兵庫県たつの市御津町]



公益社団法人 全国社寺等屋根工事技術保存会

表紙 ● 古文化にロマンを求めて

播磨國室社 賀茂神社

[兵庫県たつの市御津町室津]

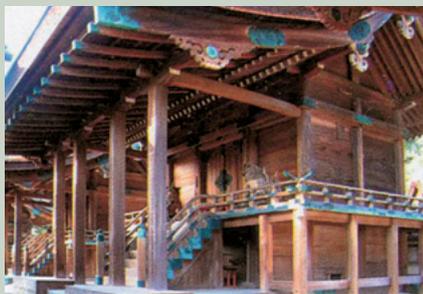


桜と唐門

開創

今から約2660年以上前、神倭伊波礼毘古命(後の神武天皇)が御東征の途中、備前の高島宮に8年間お留まりになっていたとき、九州出発以来御先導を勤めた賀茂建角身命(八咫鳥となって大和へ導かれた神/京都賀茂御祖神社(通称 下鴨神社)の祭神)が室津に来られて、入江に蔓延る藤葛を斧・鉞・鎌の三刃をもって切り払い港を造られ、一人の翁と一部の人々を残していかれた。

これが室津の港の始めであり、室津住民の始祖であった。このとき賀茂建角身命が「我が造りし港内を見れば山三方を囲みまことに室の如し」と言われたのが室の名の起こりといわれ、『播磨國風土記』にも揖保郡浦上里室原泊と記されている。室津の港はこのいわれにより「藤切りの港」といわれて今日に及んでいる。この賀茂建角身命が、室津賀茂神社の主祭神、賀茂別雷神(京都賀茂別雷神社(通称 上賀茂神社)と同じ神)の祖父神である。



本殿

縁起

以後、室津は瀬戸内海屈指の良港として、その名は奈良、平安の都にも聞こえ、遣唐使出発の港の候補にも選ばれたことがあった。(「延喜式」祝詞/唐に使を遣わす時奉幣より)又、天平年間には僧 行基によって制定されたという「撰播五泊*」の一つとなり、以来中国、三韓異城の遠客、日本の名士、文人、賓客の数々が訪れる事となった。

平安時代になると、室津は室塩屋御厨として京都賀茂別雷神社社領四十二所の一つとなる。治承年間には平清盛が高倉上皇と厳島詣の途中、室津に一泊し、神前に御幣を捧げ海上安全と旅の安泰を祈られたとき、「社五六、大やかにてならび」と記されていたことから、今から800年以上前にも、現在と同じ佇まいで、神様をお祀りしてい

たことがわかる。(高倉院厳島御幸記より)

鎌倉時代には源頼朝、室町時代には足利尊氏・赤松政村等の尊崇をうけ、守護大名の時代・応仁の乱・戦国時代と移りゆく間にも、時には室津が戦場になったことはあったけれども、神社が被害を受けたり武家から領地を召し上げられたりしたことはなかった。これは伊勢の神宮につぐ賀茂神社の神格と御祭神の御神徳によるものといわなければならない。

降って江戸時代になると、初代家康より代々の将軍が領土安堵(権利を承認すること)の朱印状を下し、姫路藩主や岡山藩主等は独力で神社の造営を奉納していることから、手厚く取り扱われたことがわかる。

この他にも室津へは足利義満、ドイツの医学者シーボルト(オランダ商館員)等も立ち寄り、文人として山部赤人、西行法師、与謝蕪村、小林一茶、頼山陽、竹久夢二をはじめ多数の有名人が和歌に漢詩に絵画にそれぞれ室津を詠じ、近くは谷崎潤一郎の『乱菊物語』でも室津が舞台となっている。

社殿(重要文化財)

現在の社殿は、江戸時代前期 元禄12年(1699)の再建。社殿は、本殿(三間社流造)とその左右に鎮座する片岡・大田社(二間社流造)、貴布祢・若宮社(二間社流造)、相尾社(一間社流造)の撰社三棟、そして権殿の五棟で、本殿正面の唐門一棟、その左右にある回廊二棟が接続して社殿を取り囲んでいる。いずれも檜皮葺で、八棟とも国の重要文化財に指定されている。

さらに、拝殿は境内を挟んで造られているところから、「とび拝殿」といわれ、非常に珍しい古い形の境内建造物配置を残している。



左側に拝殿、右側に社殿が描かれている賀茂神社

シーボルト著「日本」より

*行基が開いたとされる播磨・摂津の合わせて5箇所の港。いずれも現在の兵庫県内。

主任文化財屋根葺士 検定会 実施される

檜皮・柿葺【第18回】●平成30年10月15日(月)～10月20日(土)／5名(檜皮葺師4名・柿葺師1名 うち2名は学科のみ)

茅 葺【第10回】●平成30年10月15日(月)～10月20日(土)／2名(うち1名は学科のみ)

[会場●丹波市ふるさと文化財の森センター]

今年度の検定は、学科検定のみを受検者も含め、合計7名の受検者を迎えて実施しました。指定屋根模型を使用した実技検定では檜皮葺2名と柿葺1名、茅葺1名の屋根葺士が挑み、それぞれ試行錯誤しながら真剣な眼差しで取り組んでいました。最終日の検定会ではOFFICE 萬瑠夢の村田信夫先生をはじめ、京都府、滋賀県、奈良県、(公財)文化財建造物保存技術協会の文化財担当の皆様、加えて当会理事・監事らが、仕上がった模型の出来栄

について査定を行いました。

今回は学科のみを受検者も含め、檜皮葺3名・柿葺1名、茅葺では2名が合格いたしました。残念ながら不合格となった者については更なる研鑽を、また合格した者についても、常に上を目指す姿勢を忘れずに現場と向き合って頂きたいと思います。

最後に、本検定会にご協力を頂きました皆様に紙面を借りて御礼申し上げます。



檜皮葺実技検定



茅葺実技検定

主任文化財屋根葺士 認定証 更新講習会 開催

[会場●京都市文化財建造物保存技術研修センター]

去る11月16日(金)、京都府文化財保護課から鶴岡典慶建造物担当課長をお招きし、更新講習会を開催いたしました。鶴岡様には、更新対象者18名を前に、スライドを用いた文化財修理の実際について講義を頂き、今後の課題についても問題提起を頂きました。当日は、受講生との対話形式で進められ、各々が感じている疑問についても話し合いがなされ、有意義な講習会となりました。

受講された皆さんには、今一度初心に帰り、今後の仕事に生かして頂きたいと思います。



平成30年度 檜皮採取者(原皮師) 18期生 終わる

平成30年度の檜皮採取者(原皮師)初級養成研修は、4名の研修生にて9月4日より河内長野市有林に入山し、日向大神宮、九大演習林、那岐山国有林、岡室氏民有林、秩父市管理の栃本市有林にて、10クールに及ぶ実技研修を終了しました。各クールの指導員による指導のもと、4名の研修生が切磋琢磨し、実りのある研修に



なったと思います。来年度からは中級研修生としてさらなる技術の研鑽に期待しております。

研修にご協力いただいた山林所有者、国有林の関係者の皆さまに感謝申し上げますと共に、今後ともご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。



平成30年度 檜皮採取者(原皮師) 中級研修 終わる

平成30年度の檜皮採取中級研修は、28名の研修生にて、9月3日の宮島国有林から始まり、三上山国有林、賤母国有林、別所国有林、地獄谷国有林、城山国有林、徳山試験地で全15クールの研修を行い、2月15日に終了しました。今期は、台風など天候の影響で採取量が少なくなるクールもありましたが、中級者の技術、意識の向上により、全体の採取量は多くなってきていると思



ます。今後も、研修生同士が切磋琢磨し、より高い技術、意識を持って、檜皮屋根の素である丸皮の質の向上と維持に努めてください。

今年度も研修林を提供していただいた近畿中国森林管理局及び中部森林管理局、京都大学の各森林の関係者の皆さまに感謝申し上げますと共に、今後ともご理解ご協力をよろしくお願い申し上げます。



平成30年度 檜皮採取者(原皮師)特A研修を初めて実施

今年度は新たに、特A檜皮採取研修を2月18日から23日までの期間、平岡八幡宮様の森にて大野浩二指導員と研修生4名の計5名にて実施しました。(特A：中級研修生の中でも特に技術力がある者＝Aランク付けされた者が3年以上その技術査定(考課値)を維持した者)中級研修とは別に、大径木のある森で行う研修は特A研修生にとって特化したものになります。短期間ではありますが選定技術保持者大野氏との檜皮採取作業、寝食を

共にした1週間は、また新たな発見があるなど良い経験になったのではないかと思います。

研修林を提供いただいた平岡八幡宮様に感謝申し上げますと共に、今後ともご理解ご協力をよろしくお願い申し上げます。



平成30年度 ふるさと文化財の森 「森が支える日本の技術2018公開セミナー」開催

今年度は、檜皮葺に焦点をあてて事業を実施しました。セミナー開催期間中は、多くの参加者にご来場いただき、我々の技術やそれを支える資源について周知することが

できたのではと感じています。ご協力いただいた関係機関に対し、この場を借りて深く御礼を申し上げます。

名 称 ● 平成30年度 ふるさと文化財の森「森が支える日本の技術2018公開セミナー」

主 催 ● 公益社団法人 全国社寺等屋根工事技術保存会

期 間 ● 平成30年11月2日(金)・3日(土)・20日(火)、12月7日(金)・8日(土)

会 場 ● 清水寺 境内(京都市東山区清水1-294)

京都市文化財建造物保存技術研修センター(京都市東山区清水2丁目205-5)

国宝 清水寺本堂 保存修理現場(京都市東山区)

平岡八幡宮(京都市右京区)

鞍馬山国有林(京都市左京区)

参加者 ● 約2,000名

共 催 ● 京都市

後 援 ● 京都府教育委員会、京都市教育委員会、林野庁 近畿中国森林管理局 京都大阪森林管理事務所、
公益財団法人 大学コンソーシアム京都、公益財団法人 京都古文化保存協会、
公益財団法人 京都市文化観光資源保護財団

開催内容

(1) 将来の担手養成に関するプログラム

1. 文化財講座
2. 保存修理現場見学



(1) - 1

京都市文化財建造物保存技術研修センター



(1) - 2

清水寺 本堂

(2) 資材採取方法の実演、展示、研修

1. 檜皮採取実演
2. 資材確保への取組（パネル展示）
3. 資材を育む研修（檜の枝打ち）



(2) - 1

平岡八幡宮



(2) - 2

京都市文化財建造物保存技術研修センター



(2) - 3

鞍馬山国宥林

(3) 文化財講演会 [平岡八幡宮 宮司 佐々木俊輔様]



京都市文化財建造物保存技術研修センター

(4) 「未来につなぐ匠の技」～伝統的屋根工事技法の紹介～



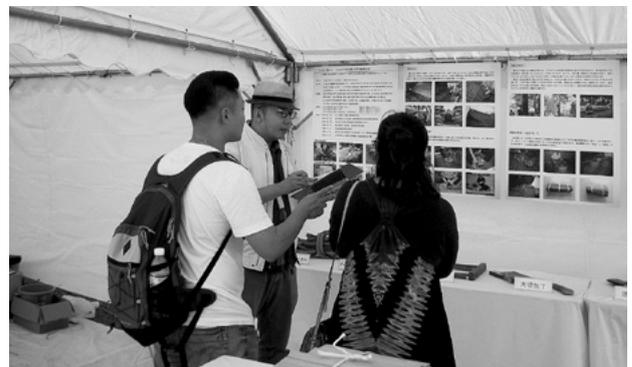
清水寺 境内

(5) ワークショップ ～一般向けプログラム～



清水寺 境内

(6) リーフレット等広報物の配布



清水寺 境内

(7) 京都府名誉友好大使の活用



清水寺 境内

(8) 特設 HP の作成と SNS を利用した広報の実施

平成30年度 特別講座 開講(全2回)

第2回「翠簾一筋 ～伝統と技～」



みす平
八代目 前田 平八

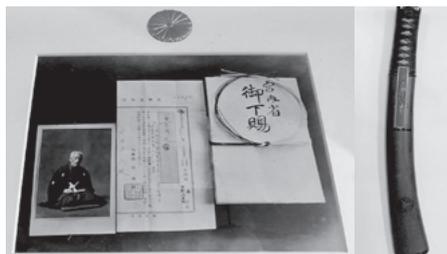
日時 ■ 平成30年12月8日(土) 14:00～16:00
会場 ■ 文化財建造物保存技術研修センター

若き二人の息子さんと共に、代々受け継がれた伝統の技・心を今に伝える「みす平」の有職翠簾師 前田平八様。翠簾の歴史や技法についてご講演いただきました。

【講演内容要約】

翠簾の歴史を繙く

私どもは、江戸時代、寛政年間(1789-1801)初期の創業で、200年以上続いています。京都御所のお抱え職人として従事していましたので、明治天皇が東京行幸の折に、当主が行列にお供したという資料と刀が残っています。皇室に対する不敬がないよう、不幸の物は納めないということで、当主が亡くなるたびに納品途中の仕掛品は燃やし、また工房を別の場所に移してきたという歴史があります。長年に亘り、京都御所、伊勢神宮など、



東京行幸時、宮内省からの御下賜と携帯した刀

宮内庁や全国の神社仏閣の「翠簾」を手掛けて参りました。それら御用達のお礼は今も数多く残っています。

翠簾の歴史は、中国を発端として日本へ伝来してきた可能性が高いと推測されています。中国では、紀元前2世紀前後の時代には存在しており、『漢書』には「皇帝の寝殿の入り口に吊されていた」との記述があります。しかし、翠簾として使われていたということではないようです。日本では『万葉集』に初めて「簾」という言葉が登場するのですが、この段階では翠簾とは認められません。

その後、平安時代の寝殿造、室町時代の書院造など、建築様式に伴って翠簾が登場してきます。住まいの仕切りとして使用していましたが、「神様と人間界」、「高貴

と庶民」を隔てる「結界」として使われ始めました。建物以外では、牛車や輿の窓などにもそうですが、やがて、そういう文化が町衆に降りてきたのが簾になります。材料はヨシやガマで、日除けや目隠しとして使用されていました。しかし、神聖な竹で作る翠簾と、大衆で使われる簾は厳格に区別され、作る職人までも分けられていたということです。

神前の荘厳な竹の佇まい

材料となる竹は、驚異的な成長力・生命力、そして厄除けと、太古より不思議な霊力を持つ神聖な植物とされてきました。更に、「魔除けの力」があると考えられているウコンでその竹を黄色に染めていたのが翠簾です。一般には、「御簾」と書かれますが、青白い竹をウコンで染めると黄緑色に見えることから、私どもでは「翠簾」と書いて「みす」と読ませています。



上/竹の甘皮剥ぎ取り、下/竹の中割

翠簾作りは、竹を編み上げ、縁布と装飾品の取り付けになります。竹については、真竹の甘皮を剥ぎ取り、大割・中割・小割と順に細くし、染料に浸けて天日干しをします。指定の寸法に布割して、朱の絹糸を掛けて竹を



機台で竹を編み上げる作業(長男・前田平宗さん、次男・前田平志朗さん)

編み上げ(機械編み)、切り揃えます。次に、布筋^{のすじ}を考え裁断した織物を、編み上げた竹に袋状に縫い付け、帽額^{もこう}(上長押に添って横に張る幕)を付けます。装飾品の麻房は櫛で研ぎ、糊をして乾燥させ、紐^{かぎ}を結び付け、鉤を付けて翠簾に取り付け、完成です。



上/緑布の縫い付け、下/帽額

また、竹を手で編み上げるのに、機台^{はたせ}というものがあります。溝が切っており、糸を巻き付けた駒をはさみ、駒を跳ね上げながら竹が締まるように編み上げます。今、80歳で現役の編み子さんがおりますが、その編み子さんなら、翠簾1枚を10日間ほどで編み上げます。3年間修行を積んでいる私の長男と次男は、2人で3週間は掛かるものです。

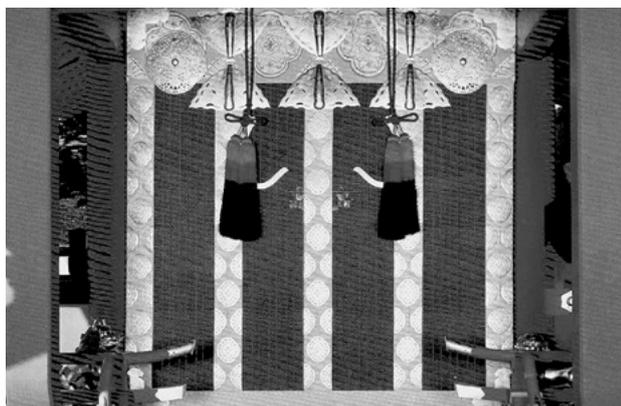


上/組紐の結び、下/麻房の始末

奈良の春日大社では20年に一度、式年造替が執り行われ、ご神宝の翠簾を皇后陛下がご奉納されるのがならわしです。金具の付いた立派な翠簾は非常に珍しく、春日大社以外にはありません。岩絵具の緑青^{ろくしょう}で1本1本手塗りした830本の真竹を手編みで仕上げ、地金に漆を塗った上に金箔を貼った98枚^{かざり}の鍔金具を取り付けて、本殿(国宝)に掲げる翠簾がようやく完成します。よく考えられたもので、ここ



左/岩絵具(緑青)塗り、右/金箔貼り



春日大社・本殿の扉に取り付けられた豪華な翠簾



講演風景

の宮司さんもおっしゃっていましたが、代々技術を受け継いでいくのに20年はギリギリのところだろうということです。

未来につなぐ伝統と技術

かつては、私どもにも丁稚さんが居りまして、房などの付属品をすべて自社で賄っていました。しかし、丁稚制度は廃止となり、皆さんが独立されて翠簾の製作を分業することになりました。現在、すでにその職人さん達は亡くなられたり、或いは、この先の跡継ぎがおられなかったりと、私どもも大きな課題に直面しています。分業していた仕事を、逆にこちらで吸収しなければならなくなっていることがあります。日本古来から伝わる伝統文化の素晴らしさに無頓着になっている日本人は多く、需要の減少、やっただけのお金を生み出せないということから担い手不足が続き、翠簾作りの世界も厳しい状況に陥っています。日本のよき伝統文化を少しでも多く残していきたいと、模索し続けているのです。

日本の文化・伝統をつないでいくための技術の伝承が近年非常に厳しくなっている現状をお聞きし、当会としても手仕事でしか残せない伝統技術をこれからの未来にどう伝え、残していくことが出来るのかを考えていかなければいけないと感じました。

前田様には、ご多忙の折にもかかわらず、ご講演いただき本当にありがとうございました。

前田 平八氏 プロフィール

昭和33年3月12日 京都市生まれ。
寛政初期創業の「みす平」の長男として生まれる。
東山高等学校卒業後、経理専門学校にて簿記を学ぶ。
その後、八代目を継ぐ意志を持ち家業に従事し、現在に至る。

[主な納品先]

- 宮内庁、各神社、仏閣
- ニューヨークメトロポリタン美術館 日本ギャラリー
- 奈良 春日大社 御神宝翠簾
- 平泉 中尊寺 御本堂翠簾

発行所

京都市東山区清水二丁目 205-5
文化財建造物保存技術研修センター内



公益社団法人 全国社寺等屋根工事技術保存会

TEL 075-541-7727 FAX 075-532-4064
<http://www.shajiyane-japan.org>

古文化 第119号

平成 31 年 3 月 31 日発行

乱丁・落丁本はお取り替えいたします。

あとがき

今年の春は、その訪れが随分早かったようです。西日本豪雨災害からは8か月が経ち、被災地にもようやく復興の兆しが見えてきました。

当会報は、昭和55年(1980)6月の創刊から今年で39年を迎えようとしています。昭和から平成に続くこの間、技術者の育成と植物性屋根の伝統を知っていただくための活動に努めて参りました。この冊子が配られる頃には新元号が発表され、いよいよ「平成」も終わりとなりますが、我々が担ってきた伝統技術の継承は決して終わることはありません。

これまで当会を支えてくださった関係各位、並びに会員皆様のご努力やご協力に心より感謝申し上げますと共に、次年度も変わらぬご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

■ ふ る さ と 探 訪 ■

佐々木 真さんの古里

「外国人が参拝する元乃隅神社」

(山口県長門市)

佐々木真さんのふるさと山口県で、近年最大の話題となっているスポットが元乃隅神社だ。県の北西部、日本海に面した断崖にある同神社は昭和30年(1955)に地元の網元だった岡村齊氏によって建立された。氏の夢枕に白狐が現れ、海の幸への感謝のしるしとしてこの地に鎮祭するようお告げがあったのだという。

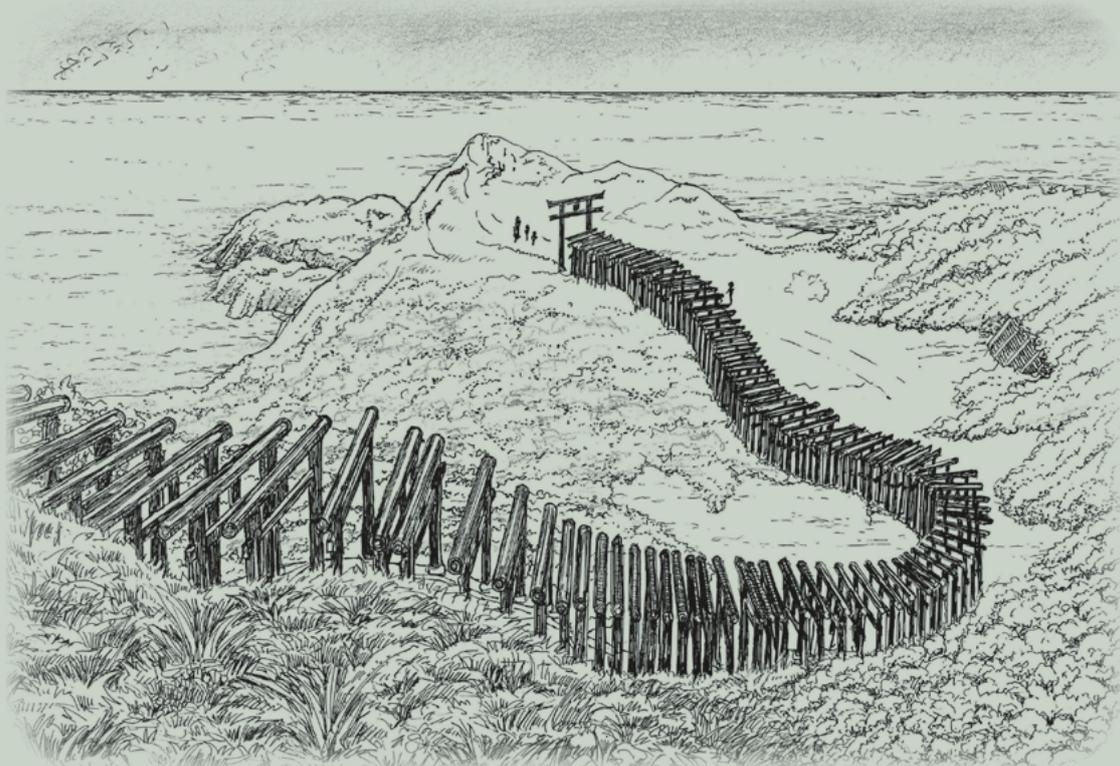
神社から見下ろす断崖の下部には海蝕洞があり、打ち寄せる波が空気とともに吹き上がる「龍宮の潮吹」と呼ばれる現象を見ることができる。とはいえ自家用車でなくては近づき難い場所であり、地域外から訪れる観光客はこれまでさほど多くなかった。

情勢が一変したのは今から4年前の平成27年(2015)のことだ。アメリカの放送局「CNN」が選定した「日本でもっとも美しい場所31選」の中に元乃隅神社が選ばれ、これをみた外国人観光客が本州の西の果てといえるこの地を目指して来日するようになった。最寄りのJR長門古市駅からタク

シーで約20分の距離にある神社までわざわざ参拝に来るといふのだから驚きだ。それほど美しい場所なら行ってみたいという日本人観光客も急増し、週末になると押し寄せる自家用車のために駐車場を増設する騒ぎとなった。

外国から指摘されて改めて見直す元乃隅神社はなるほど日本らしい美にあふれている。海に向かって伸びる参道には123基の赤鳥居が龍のように並び、その向こうには日本海の絶景が広がっているのだ。鳥居の赤、海の青、木々の緑が交錯する神秘的な光景には誰もがカメラを向けたくなる。

同神社は昨年まで「元乃隅稲成神社」だったのだが、長い社名が外国人に分かりにくいなどの理由で今年に入って元乃隅神社に改名した。元々同社は宗教法人格を取得しておらず改名は自由なのだ。ずらり並んだ鳥居も岡村家の個人的所有物であり、裏参道にある大鳥居の中央上部、高さ4mのところには「日本一入れづらい賽銭箱」が設置されている。これも単に面白いからそこに置いたまだけだという。



古文化

第 119 号



公益社団法人 全国社寺等屋根工事技術保存会